

第45回 平成28年

新潟県指定無形民俗文化財

三条かぐら鑑賞会

日時 10月2日(日) 午後1時開演

会場 三条市中央公民館大ホール



主催 三 条 市
三条神楽保存会

プログラム

- | | | | |
|---|-----------|----------------|-------|
| 1 | 開会のことば | 三条神楽保存会会長 | 佐藤 力 |
| 2 | 主催者あいさつ | 三条市長 | 國定 勇人 |
| 3 | かぐらの演舞 | (解説) 神明宮禰宜 | 三上 正行 |
| | (1) 地久楽の舞 | 一ノ木戸 | 神 明 宮 |
| | (2) 悪魔払の舞 | 田 島 | 諏訪神社 |
| | (3) 鳥形の舞 | 三 条 | 八 幡 宮 |
| | (4) 鎮護鉦の舞 | 大 崎 | 中山神社 |
| | (5) 羽返の舞 | 田 島 | 諏訪神社 |
| | (6) 太平楽の舞 | 保 内 | 小布勢神社 |
| | (7) 神勇の舞 | 保 内 | 小布勢神社 |
| | (8) 福神遊の舞 | 塚野目 | 白山神社 |
| | (9) 奉幣の舞 | 塚野目 | 白山神社 |
| | (10) 特別出演 | 三条小学校ふるさと運動クラブ | |
| 4 | 閉会のことば | 三条市市民部生涯学習課長 | 金子成郎 |

1 ちきゅうらく 地久楽の舞



一ノ木戸 神明 宮

天地長久を祝して天忍日命あめのおしひのみことが天岩戸の大前で、天地とともにみんなの安全を祈ったことに由来する舞です。

また、この舞は能狂言の「三番叟」さんぼそうの装束で鈴をもって舞う形が、それに似ていることから、俗に「さんばさ」ともいわれています。

【囃子】大満

【装束】大烏帽子・子大毛頭・金欄大狩衣・大口

【面】悪魔祓面

【採物】鈴

2 あくまばらい 悪魔祓の舞

田 島 諏 訪 神 社

天孫の降臨に先立ち、フツヌシノミコトが中津国の荒ぶる神を打ちしずめるために努力されたことにちなんだ舞で、神刀の威力で邪気を祓い、世の中の安泰を祈るものです。

フツは、刀剣の鋭く物を立ち切る音の擬声語で、諸々の悪を刀剣で断ち切ることを象徴した舞です。

【囃子】悪魔祓拍子

【装束】金欄法被差袴毛頭（大）

【採物】剣



3 とりかた 鳥形の舞

三 条 八 幡 宮

天岩戸の変の折、思金の神の計により夜明けを告げる常世の長鳴鶏を鳴かしめられた。天照大神は岩戸の中にあつて、朝を告げる長鳴鶏が鳴き、神々が笑いさざめていることを不審に思われ、岩戸の扉を少し開けて外をのぞかれようとした時に、手力男の命が岩戸のすき間に手をかけ、扉を開き大神をお出し申し上げた。

この舞は、その故事にならい、常世の長鳴鶏を形どって舞われる舞で、動作には鶏の生態をそのまま写し出している所が多い。

【囃子】鳥形拍子 【装束】鶏形頭・毛頭・狩衣・差貫・脚絆 【面】翁 【採物】大麻

4 ちんごほこ 鎮護鉾の舞

イザナギ・イザナミの二神が天の浮橋に立たれ、天の沼矛で滄海をかきまわし、矛を引きあげた時、矛先からしたたり落ちた潮がかたまってオノノコロ島に天の御柱立てられ、御柱を廻りながら夫婦の契りを結び、次々に日本の島々をお生みになったと伝えられています。

【囃子】大満 【装束】黒毛頭・千早・大口 【面】鎮護鉾面(阿吽) 【採物】短鉾云

大 崎 中 山 神 社



5 はがえし 羽返の舞

田 島 諏 訪 神 社



稚児4人で舞う。天岩戸の変の時、岩戸の前で羽根扇を両手に持ち、大神のおでましを一時も早くと、国土四神に、岩戸前に参集なされた神々が祈りを捧げられた事に由来する舞です。

【囃子】羽返拍子 【装束】天冠・白狩衣・青袴・曲玉 【採物】扇2本

6 ^{たいへいらく} 太平楽の舞

保内 小布勢神社



天の岩戸の変の時、^{いしこりどめのみこと}岩凝姥命が天の金山の鍬

^{やたのかがみ}で八咫鏡を造り、その完成を祝ったという故実による舞です。

この舞は別名が多く、「鏡づくり」「盆舞」「日月」などの呼び方があります。

「鏡づくり」は、^{やたのかがみ}八咫鏡を作ったということから、「盆舞」は、採物が盆であることから。「日月」は二枚の盆を日と月にみたててこの名があります。

【囃子】シヤギリ 【装束】毛頭・千早・立付 【面】彦面 【採物】丸盆二枚

7 ^{かみいさみ} 神勇の舞

保内 小布勢神社

神の喜び舞われる姿を表現し、神の勇みを現わしたものとされている一人舞です。

湯立神事の際とくに舞われるしきたりになっています。

【囃子】大満 【装束】狩衣・切袴・黒毛頭 【面】奉幣面 【採物】剣・鈴



8 ふくじんあそび 福神遊の舞



塚野目 白山神社

恵比寿、大黒の舞です。互いに失敗を無言劇風にからかい合いながら舞は進められ、最後に恵比寿が大きな鯛を釣りあげ、大黒も大いに協力し喜び合います。

恵比寿が大きな鯛をかかえて退場すると、大黒は拝観者に菓子を撒いて退出します。

【囃子】三拍子・大黒一人になった時は榊拍子

【装束】大黒一大黒頭巾・狩衣・奴袴 恵比寿一風折烏帽子又は侍烏帽子・狩衣・奴袴・白脚絆・禪 【面】大黒一大黒面 恵比寿一恵比寿面 【採物】大黒一槌・袋・扇子 恵比寿一釣竿・扇子

9 ほうへい 奉幣の舞

塚野目 白山神社

天岩戸の変の折天香山の五百

つまさかき
津真賢木を根こぎにして、その

したえだ しろにぎて あおにぎて
下枝に白和幣と青和幣をかけたれ、

あめのこやねのみこと
天児屋根命が、天照大神が岩戸からのお出ましを願う祝詞を奉り上げた故実に基づく舞です。

なお、この舞は岩戸開きの舞の最後に舞われるものですが、これだけを取り出し、その日の舞列の最後に舞われています。

【囃子】羽返拍手 【装束】狩衣・切袴・立烏帽子 【面】奉幣面又は素面 【採物】鈴・幣



10 特別演奏 三条小学校ふるさと運動クラブ

<ふるさと運動クラブについて>

三条小学校歴代の先輩たちが守り継いできた「ふるさと太鼓」。

今年は、6年生19名、5年生13名、4年生12名、合わせて44名で活動しています。「ふるさと太鼓」は、6年生から5年生へ、5年生から4年生へと楽譜を使わず言葉や動作で曲を伝えています。三条小学校の伝統を大切に守り伝えていく意気込みで、練習に取り組んでいます。6年生は、4・5年生のお手本となるように、太鼓のたたき方のこつや、かけ声、間の取り方を伝え、仲良く練習に励んでいます。

5月15日の三条祭りでは「しゃぎり」を演奏し、8月5日の三条夏まつりでは「凧ばやし」の演奏と踊りを披露しました。地域の方からも、直接、演奏や踊りの指導をしていただいています。

そして、11月4日には、三条小学校創立144周年を祝って、4・5年生は「凧揚げ太鼓」、6年生は「金物太鼓」を演奏する予定です。他にも、総合学習発表会、三条マルシェ、まちなか文化祭などに出演し、たくさんの方に演奏を聴いてもらっています。特に今年度は、佐渡のアースセレブレーションに参加したり、来年度統合する裏館小学校の皆さんに聞いてもらったりして、三条小学校「ふるさと太鼓」のすばらしさを伝えています。

<演奏曲について>

「凧揚げ太鼓」は、祝いの席などのおめでたい時に演奏する曲です。三条小学校でも入学式や卒業式で演奏しています。「金物太鼓」は、金物の町三条を表している曲です。三部構成で、希望と歓喜に満ちた金物の町の発展を力強くうたいあげています。

今日演奏する「凧揚げ太鼓」は、凧ばやしの歌や笛を織り交ぜて、聴く人が楽しく元気になるように構成しました。「金物太鼓」は、低学年の頃からのあこがれの曲です。最高学年になった6年生が、三条小学校の伝統を受け継ぎ、三条市の情景が思い浮かぶように、クラスの仲間と心を一つにして演奏します。元気で迫力のある演奏を、どうぞご鑑賞ください。



三 条 神 楽 の 由 来

三条神楽は、出雲神楽系統に属する神楽です。出雲神楽は、岩戸開き神話を中心とし、その他古くから出雲大社に伝わる神事や、神社の縁起を新たに取り入れ演じられた神楽です。その出雲流の神楽が、山陰から北陸を経て三条の地に伝えられたものと考えられます。

江戸時代の文化8年（1811）には、三条（八幡宮）で神楽が舞われていたことが、古記録に残っていることから、その起源はさらに遡るものとみられます。

ふつう5舞か7舞を伝えるものが多いなかで、三条神楽は32舞も保存されていて、たいへん珍しいため、昭和38年3月、県の無形民俗文化財に指定されました。

このようにすぐれた郷土芸能を、広く市民のみなさんから知っていただき、後世に伝えるため、三条市および三条神楽保存会では、後継者の育成に努めています。研修会や講習会などをおして研鑽を重ねる一方、ビデオや映画に収録したり、本にまとめたりして、当市の伝統芸能の保存をすすめています。

新潟県指定
無形民俗文化財

三条神楽32舞の演目

1 先稚児の舞	9 鳥形の舞	17 天川の舞	25 杵樹の舞
2 宮清の舞	10 羽返の舞	18 奉幣の舞	26 宝剣作の舞
3 悪魔祓の舞	11 岩戸開の舞	19 小弓遊の舞	27 深山錦の舞
4 鎮護鉾の舞	12 地久楽の舞	20 四神の舞	28 神勇の舞
5 久奈戸の舞	13 稲田宮の舞	21 五行の舞	29 五ツ刀の舞
6 五穀撒の舞	14 榊の舞	22 大鉾の舞	30 三座返の舞
7 五穀捧の舞	15 花献の舞	23 天孫降臨の舞	31 宮司舞
8 太平楽の舞	16 福神遊の舞	24 末広の舞	32 乙女舞